

《四日市市立富洲原中学校 学校づくりビジョン》

＜学校教育目標＞互いに「聴き合い、学び合い、響き合う」生徒の育成
＜校訓＞自主的で、真面目で、忍耐強く



校章の由来（1949.4.1 制定）（地色：黒いぶし、字色：金）



富洲原の富をトと見たて地域の特性を生かし、錨に図案化して中心の中の字を三つの錨で囲むように組み合わせた。校区である富田一色、天力須(洲)賀、松原の三つの地域の生徒が集まって、勉学に励む姿を表徴している。

めざす生徒の姿

- ① 自ら考え、学ぶことをあきらめない生徒（自立）
- ② 命を尊重し、やさしさと思いやりの心を大切にする生徒（共生）
- ③ やる気をもって、心身ともに、たくましく生きる生徒（チャレンジ）



「学びの一体化」
イメージキャラクター
まなびーず

めざす学校の姿

- ① 生徒自らの学びを表現しあう学校
＜学びの協団体づくり、授業づくり＞
・生徒の主体的活動の推進・学び合いの深化
- ② 教師と生徒に柔らかな関わりのある学校
＜ケアリング、仲間づくり＞
・信頼関係の構築・自尊心の育成
- ③ 内にも外にも開かれた学校・教師
＜開かれた学校づくり＞
・生徒、保護者、地域、学校(教師)の相互理解と協働
・納得できる説明、対応と情報の共有

めざす教師の姿

- ① 本物を求め、自己研鑽に励む教師
- ② 生徒に寄り添い、共に育つ教師
- ③ 実践・行動力・人権感覚のある教師
- ④ 自己の思いを伝え、優しさと厳しさをもつ教師
- ⑤ ゆとりを持ち、心身の健康に努め、新しい教育に取り組む教師



重点目標

- ① 聴き合い、学び合うかわりを深め、一人一人の生徒が意欲的に学び響き合える授業をつくります。
＜学びの協団体づくり、授業づくり＞（教師の授業力の向上と生徒の学力向上、学びの一体化の充実）
- ② 教師と生徒、生徒と生徒、教師と保護者が互いの話を聴き合い、気持ちを理解できる柔らかな人間関係を育てます。
＜ケアリング、仲間づくり＞（信頼関係の強化、自尊心・心の豊かさの向上）
- ③ 学校内でも学校外にも、開かれた教育活動に取り組みます。＜開かれた学校づくり＞（生徒・保護者・学校の相互理解）

＜現状と課題(強みと弱み)＞

本校は、昭和22年(1947年)に誕生した学校である。校名が示すように「富田一色」「天力須(洲)賀」「松原」の3地域からなり、どの地域にも地域独特の歴史、産業、文化がある。かつては漁業・紡績の町として栄えた地域であるが、校区内を国道1号・23号、近鉄名古屋線が縦断しているなど、交通の便が良いこともあって、近年は大型店舗やマンション等の住宅が増え、地域環境が大きく変わってきている。

時代の変化に伴い、保護者や地域住民の生活環境や考え方も多様になってきている。お互い同士の人間関係やかつての地域連帯感が薄れてきている地域や、家庭での教育力が弱くなってきている傾向も生じている。しかし、学校の取り組みに理解を示し、子どもの健全な成長を願っている協力的な保護者が大多数である。

また、生徒は「明るく屈託がない」「素直で人が良い」「行事には一生懸命取り組む」などの良い面(強み)を持つと同時に、「学ぶ意欲・姿勢に欠ける面がある」「対人関係形成能力に欠ける」「メリハリがない」などの課題が見られる。特に、学びの姿勢が確立されていない生徒は、学年の進行にともない基礎学力の定着が不十分なため、学びから逃避しかねない(弱み)状況がある。平成15年度からの「学びの一体化」の継続した取り組みにより、基礎学力の定着や落ち着いた授業、学校生活の雰囲気などに成果が見られるが、今後一層、学校教育目標の達成に向けた取り組みを推進していきたい。